

## オンラインでの学習の指導記録

幼稚部教諭 ひよこ組 飯島杏那, 大門志帆, 中濟珠実

### I オンラインでの学習を始めるにあたって

本学級は3歳の男児3名と女児1名、4歳の男児2名の合計6名の幼児で編成された学級であり、どの幼児も学校生活を送ることが初めてである。また、入学式が6月に変更されたため、4、5月の在宅学習を開始する上で、幼児や保護者と直接会う機会のないまま、在宅での学習を計画することとなった。そのため、まずは一斉休業中である5月の中旬に、担任全員で各家庭に教材を届け、保護者と顔を合わせてからオンラインでの活動を開始した。

幼児の実態として、保護者等身近な大人が近くにいることで安心して過ごすことができる幼児が多く、その中で、欲しい物に手を伸ばす、手をたたく、大人の手を引くなど、それぞれの方法で要求や気持ちを伝えることができる。大人からの働き掛けに対しては、身近な物の名前や動きを表す言葉を聞いて理解する幼児、言葉と身振りを併せることで理解する幼児、言葉だけでなく写真や具体物を見ることで理解する幼児がいる。興味・関心は様々で、身体接触を伴う遊びや体を動かす遊び、シャボン玉、歌やダンスなどそれぞれに好きな遊び、活動がある。そのため、オンラインでの活動では、様々な活動を設定し、幼児の好きな物や苦手な物、幼児の様子を保護者に聞き取ったり、幼児の様子に合わせて言葉掛けをしたりしながら実態を把握していくように心掛けた。活動後は保護者とメールでの振り返りを通して、活動を行った感想や、困ったことなどについて共有し、次のオンラインでの活動に生かすことにした。

休業期間中は、福祉サービスの事業所を利用している幼児が少なかったため、ほとんどの幼児が家庭で過ごしていた。そのため、家庭での生活をより過ごしやすく、豊かにできるよう、場を設定したり、遊びを提供したりできるとよいと考えた。また、家庭での悩みについても保護者に聞き取り、オンライン上でのやり取りやメールでの振り返りの中で支援できるように心掛けた。

### II オンラインでの取組のねらい

- ・保護者と一緒に、活動内容に興味をもって見たり、触れたりして遊ぶ。(幼児のねらい)
- ・活動に対する我が子の興味・関心に合わせて関わったり、感じたことや気付いたことを共有したりする。(保護者のねらい)

### III 指導スケジュール

月日	A児	B児	C児	D児	E児	F児
4月10日	DVD送付(担任紹介,「サンサンたいそう」(作詞:やなせたかし,作曲:近藤浩章),手遊び歌「とんとんとんとんアンパンマン」(作詞:不詳,作曲:玉山英光))					
4月中	週一,二回 電話連絡					
5月11日	家庭訪問①(担任挨拶,教材貸し出し,Web会議システムの内容説明,教材配布)					
5月13日	個別でのWeb会議システムを活用した学習①「こいのぼりを作ろう」					
5月14・18日	教材送付(活動内容説明,カスタネット)家庭訪問②(様子聞き取り,教材送付)					
5月20日	個別でのWeb会議システムを活用した学習②「音楽に合わせて楽しもう」					
5月21・25日	教材送付(活動内容説明,シャボン玉用教材,C児:DVD)家庭訪問③					
5月27日	個別でのWeb会議システムを活用した学習③「シャボン玉で遊ぼう」					
6月1週目	個別でのWeb会議システムを活用した学習④「選んで遊ぼう」(B児:未実施)					
※活動は一回15分程度とし,①導入(「はじまるよ」(作詞,作曲:不詳),アンパンマンのパネルシアターなど)②各活動③終末(「おしまい」の歌(本校幼稚部教員),アンパンマンの手遊び等)という流れで展開した。終了後に,メールで感想と家庭での様子(普段の遊びの終わらせ方等毎回異なる内容)を聞き取るようにした。						

IV 指導の実際

(○：成果，●：次回に向けての課題・改善点)

日にち	5月13日	活動名	こいのぼりを作るう
ねらい	幼児	・保護者と一緒に絵の具に触れたり，教師の歌声を聴いたりする。	
	保護者	・Web 会議システムの使い方について知る。	
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と一緒に画面に映る教師を見る。</li> <li>・画面に映る教師が行う手本を見たり，保護者と一緒に絵の具に触れたりする。</li> <li>・教師の歌声を聴いたり，保護者と一緒に手遊びをまねしたりする。</li> </ul>		
活動の様子	幼児	<ul style="list-style-type: none"> <li>○始まりの歌や終わりの歌を聴いて笑顔で注目し，保護者と手を動かしていた。(B, F 児)</li> <li>○絵の具を自分から触ったり筆を使用したりして塗っていた。(A, C, D, E 児)</li> <li>○シールを貼っていた。(B, F 児)</li> <li>●教師や保護者が絵の具に触る様子を見て，活動場所から離れていた。(D 児)</li> <li>●初めての活動であったため，教師が呼び掛けたり歌ったりすると別の場所へ移動したり，泣いたりしていた。(F 児)</li> <li>●きょうだい児と一緒に参加している家庭もあり，教材を取り合う様子が見られた。(E 児)</li> </ul>	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分から我が子の様子を伝え，一緒に活動したり，教師からの問い掛けに答え，我が子の様子を見守ったりしていた。</li> <li>●活動に向けて環境を整えている家庭もあればおもちゃが出たままの家庭もあり，様々であった。</li> </ul>	
次回に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画面に注目できるように，幼児の好きなキャラクターの教材を映し出して，活動に誘う。</li> <li>・使用する音楽や歌詞の内容を幼児に合わせて変える。</li> <li>・幼児が活動に向かえるように，保護者に環境を整える工夫を具体的に伝える。</li> <li>・きょうだい児も一緒に楽しめるように，きょうだい児分の教材も一緒に送付する。</li> </ul>		



写真1 活動の様子




日にち	5月20日	活動名	音楽に合わせて楽しもう
ねらい	幼児	・音楽を聴いたり，カスタネットを鳴らしたりする。	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の様子を教師に伝えたり，我が子と一緒に活動したりする。</li> <li>・我が子の様子に応じて環境を整える。</li> </ul>	
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や教師と一緒に音楽を聴いて体を動かしたり，保護者と一緒にカスタネットを鳴らしたりする。</li> <li>・好きなキャラクターを見つけて，画面を意識したり注目したりする。</li> </ul>		
活動の様子	幼児	<ul style="list-style-type: none"> <li>○好きなキャラクターを見付け，画面に注目したり，手遊び歌を見てまねしたりしていた。(B, C, D, F 児)</li> <li>○教師や保護者と一緒にカスタネットを触ったり鳴らしたりしていた。(全員)</li> <li>●初めての活動が苦手で泣いていた。(C 児)</li> </ul>	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○我が子が活動に集中できるように，きょうだい児に事前に教材を渡したり，テレビを消したりするなど，環境を整えることができた。</li> <li>●パソコンの位置の関係で子供が椅子の上に立って活動する等，環境が整っていない家庭があった。</li> </ul>	
次回に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児に合わせて導入や終末の活動内容を変更したり，事前に教師が手本となって活動する様子の DVD を用意したりする。</li> <li>・活動の前に保護者と一緒に幼児の姿勢や活動場所の環境を確認する。</li> </ul>		



写真2 活動の様子

<オンラインでの学習 幼稚部ひよこ組>



日にち	5月27日	活動名	シャボン玉で遊ぼう
ねらい	幼児	・保護者が吹くシャボン玉を見たり興味をもったりする。	
	保護者	・我が子に手本を見せたり教師に様子を伝えたりする。	
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が吹いたシャボン玉を見たり触ったりする。</li> <li>・自分でシャボン玉を吹いたり、保護者のまねをしたりする。</li> <li>・画面に映る教師に気付いたり、画面に注目したりする。</li> </ul>		
活動の様子	幼児	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼児に合わせて活動を工夫することで画面に注目できることが多かった。(C, D児)</li> <li>○保護者が吹くシャボン玉の様子を見たり、自分でシャボン玉を吹いたりしていた。(A, B, C, D, E児)</li> <li>○シャボン玉遊びが好きな幼児が多く、活動終了後も家庭で泡遊びを楽しんでいた。(A, C, E児)</li> <li>●活動に興味をもてず場所を移動していた。(F児)</li> </ul>	 <p>写真3 活動の様子</p>
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師とのやり取りを通して環境を工夫する家庭があった。</li> <li>○教師からの指示を聞いて我が子に教材を提示したり、我が子と一緒に活動を楽しんだりしていた。</li> <li>○我が子の気持ちや様子を教師に伝えていた。</li> </ul>	
次回に向けて	・それぞれの幼児に合わせた導入や終末の活動は今後も継続していく。		

IV オンライン学習の指導を通しての成果と課題

	○成果	●課題・改善点
幼児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Web 会議システムで行うことで画面に注目することができる幼児がいた。</li> <li>・保護者やきょうだい児と一緒に活動を行うことができた。</li> <li>・家庭だけではできない活動に取り組めた。</li> <li>・画面に好きなキャラクター等を映すことで画面に注目する時間が増えた。</li> <li>・毎週取り組むことで、担任の顔を覚えたり、活動を楽しみにしたりするようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも使用しているスマートフォンやタブレット端末でなじみのない動画（人や声など）を見聞きさせられることに戸惑う幼児がいた。</li> <li>→幼児の好きなキャラクターを使って活動の導入を行うことで、画面に注目しやすくし、活動に誘うようにした。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に家庭の環境を整えたり、活動内容に合わせた場所を設定したりするようになった。</li> <li>・教師に問い掛けられなくても我が子の様子を伝え、教師と共有するようになった。</li> <li>・教師の代わりとなって我が子に問い掛けたり、手本を示したりしてくれるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ活動内容を見せても、理解できず落ち着かない我が子に対して、どのように活動内容を伝えたらよいか分からなかった。</li> <li>・急にパソコンの前に連れて行き、我が子の気持ちを活動に向かせることが難しかった。</li> <li>→教師とのメールでのやり取り等を通して、できるだけ活動場所の環境を改善してもらい、活動に取り組めるようにした。</li> </ul>
教師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での幼児の様子や、保護者と幼児の関わり方を知ることができた。</li> <li>・個々の実態に合わせて活動の展開を工夫したり、内容を変えたりすることができた。</li> <li>・教材の提示の仕方や問い掛け方を工夫しながら取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その場にはいないため、幼児の状況が分かりにくいことがあった。</li> <li>→保護者に幼児の様子について問い掛けながら活動を進めた。</li> <li>・保護者との関係性を築く前に、家庭に活動場所を設定してもらったり、パソコンの準備をしてもらったりすることに対しては、やり取りの難しさを感じた。また、幼児の好きな活動が分からず、なかなか楽しめない幼児への関わりが難しかった。</li> <li>→活動中のやり取りやメールでの振り返りを通して関係を築いたり、幼児の普段の様子や保護者との関わり方について尋ねたりした。</li> </ul>

## V オンラインでの学習をする上で大切なこと

### 1 画面に注目しやすい内容を設定し、環境を整える

画面に注目したり、活動に参加したりするためには、それぞれの幼児の興味・関心に合わせた教材や内容を用意することが重要であった。幼児の興味・関心については、入学前のアセスメントの情報に加え、保護者とのメールや活動中のやり取りを通して把握し、活動や教材に生かしていった。また、画面に注目しやすい環境を整えるため、使用する椅子や机を保護者とやり取りしながら調整したり、おもちゃを片付ける、テレビを消すなど、環境を整えたりしてもらいながら進めた。

### 2 家庭で日頃から楽しく活動できる内容を設定する

Web 会議システムを用いた活動を通して、保護者から「家だけでは思い付かない遊びを体験できた」等の感想をいただいた。このことから、幼児の家庭内での生活を豊かにするために、親子で取り組みやすく楽しめる遊びを、学校が提案することが大切であると考え。保護者が無理なく準備できる物を用いたり、取り組みやすい内容を設定したりすることで、家庭内での親子の関わりを豊かにし、幼児の興味・関心を広げることにつながると考える。

### 3 各家庭に応じた家庭生活支援に取り組む

幼児への関わり方を保護者と一緒に考えたり、教師が提案したりすることで、幼児が活動に対して前向きになったり、保護者が我が子に合わせて自主的に考えて接する姿が見られたりするようになった。また、活動終了後のメールのやり取りで、家庭で困っていることの相談を受けることも多かった。これらのことから、オンライン上のやり取りでも、教師と保護者が連携しながら、それぞれの家庭のニーズに合わせた支援を行っていくことが可能であり重要であると考え。オンラインの画面を通して、教師が幼児と保護者のやり取りを見ながら、保護者に具体的なアドバイスを伝えたり、一緒に改善策を考えたりしながら関わっていくことが大切だと考える。

## オンラインでの学習の指導記録

小学部教諭 1年 加藤 敦, 小林健吾, 二宮綾香

### I オンラインでの学習を始めるにあたって

本学級は、男子5名、女子1名の学級である。6名中5名は、本校幼稚部から就学した児童で、1名は、地域の療育機関から就学した児童である。児童の実態については、3～5語からなる文で話し、「いつ」、「どこ」、「誰」、「何」の質問に答えたり、自ら大人に質問をしたりする児童や、発声は不明瞭ではあるが、指差しや身振り、表情で要求や思いを伝えることができる児童、言葉や発声でのやり取りは難しいが身近な大人の手を引く等、行動で要求や思いを伝える児童がいる。また、興味・関心は、タブレット端末等を使い、動画を見たり、ゲーム等のアプリで遊んだりすることを楽しむ児童、粘土遊びや人形遊びなど物を使って遊ぶことが好きな児童、おもちゃ等には興味を示さず、トランポリンやブランコなど感覚的な遊びを楽しむ段階の児童など、実態は様々である。

休業期間中、すべての児童が、日中は週に2～5日程度、放課後等デイサービスを利用して過ごしていた。したがってどの児童も比較的、生活のリズムが大きく崩れることはなかった。一方で、一斉休業に伴い、3月は幼稚部の卒業式のみを実施、さらに4月に予定していた入学式も6月に延期となり、その間学校に登校したり、教師と児童、教師と保護者が直接学校で顔を合わせたりすることが一度もない状況でのオンラインでの授業の開始となった。そこで、本学級では、まずは担任と保護者との関係作りのためにオンラインでの保護者個別懇談を実施した。そして保護者から現在の児童の様子を聞き取り、実態把握をした上で、一人一人の児童に応じたオンラインでの授業のねらいと内容を計画し、教師と保護者で協力して実施した。なお、1名の児童（以下F児）については、地域の療育機関から本校に入学する児童のため、児童の実態と保護者の要望等を踏まえてオンラインでの授業は実施せず、教師が家庭を訪問し、直接児童と関わりながら保護者と協力して入学、登校に向けての指導を行った。

### II オンラインでの取組のねらい

#### 1 オンラインでの保護者個別懇談会のねらい

- ・オンラインでの保護者懇談会を通して、担任と保護者が互いを知り合う。
- ・現在の家庭の状況や保護者の思いや願いを知り、休業中の各家庭に応じた具体的に必要な指導や支援について、保護者と一緒に考える。
- ・今後の指導に生かすために、現在の児童の生活リズムや家庭での過ごし方、興味・関心を知る。

#### 2 オンラインでの授業のねらい

- ・画面を介して教師が提示する物を見たり、教師の話を聞いたりする。
- ・教師の呼び掛けや働き掛けに気付き、身振りや声で返事をしたり、教師の質問に答えたり自分から質問したりするなどして、やり取りを楽しむ。
- ・新しい担任や教室について知ったり、興味をもったりして、小学生になったことが分かる。

### III 指導スケジュール

月日	A児	B児	C児	D児	E児	F児
4月	上旬：教材の送付，中旬：各家庭と電話，メールでのやり取り					
5月11～15日	オンラインでの保護者個別懇談（各家庭45分程度）					保護者と電話でのやり取り

5月18～22日	オンラインでの授業①（個別）1回20分程度	個別懇談（対面）
5月21日	教材の送付	家庭訪問
5月25～29日	オンラインでの授業②（個別）1回20分程度	家庭生活支援

※オンライン授業（個別）は1回当たり20分程度（①挨拶，②呼名，③絵本読み，④クイズ，工作など個々に応じた活動，⑤挨拶）とし，その後10分程度，保護者と担任で授業の振り返りを行う。

#### IV 指導の実際

日にち	5月11日～15日	活動名	オンライン保護者懇談会（各家庭と個別の実施）
ねらい	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン保護者懇談会を通して，担任と保護者が，顔合わせをする。</li> <li>・休業中の家庭の状況や保護者の思いや願いを知り，休業中の各家庭に応じた具体的に必要な指導や支援について，保護者と一緒に考える。</li> </ul>	
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接続方法，Web会議システムの使い方を確認し，各家庭と学校をオンラインでつなぐ。</li> <li>・画面上で顔を合わせ，担任と保護者が互いに自己紹介をする。</li> <li>・休業中の児童の生活リズムや家庭での過ごし方，保護者の思いや考えを聞く。</li> </ul>		
活動の様子	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校と家庭の初めてのオンライン接続だったが，電話でのサポートをしながら各家庭問題なく接続することができた。</li> <li>○担任3名と初めて同時に顔を合わせた懇談だったが，リラックスした雰囲気の中で互いに自己紹介したり，話をしたりすることができた。</li> <li>○休業中の家庭での児童の様子や保護者が感じている不安，困っていることなどを学校と家庭で共有することができた。</li> </ul>	
	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担任と保護者がオンラインでやり取りをする様子に興味をもち，画面を見たり画面に向かって話し掛けようとしたりする児童がいた。（D児）</li> </ul>	
次回に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の都合と児童がデイサービスを利用する日を踏まえ，次回オンライン授業をする日をメールにて日程調整する。</li> <li>・保護者から聞いた最近の児童の興味・関心，様子を踏まえて，オンライン授業で行う読み聞かせ等の活動内容と各家庭に郵送する教材について検討し準備をする。</li> <li>・オンラインでの授業における教師の役割分担（進行，画面操作，接続サポートなど）をし，事前にリハーサルを行う。</li> </ul>		




日にち	5月18日～22日	活動名	一緒に勉強しよう①
ねらい	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画面を見て，保護者と一緒にオンラインでの授業に参加する。</li> <li>・新しい担任や小学部の生活について知り，興味や関心をもつ。</li> <li>・画面の教師に気付いて見たり，画面を介したやり取りに興味をもったりする。</li> </ul>	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師とオンラインでの授業における児童の様子について共有し，児童に応じた活動内容や，家庭での関わり方について教師と一緒に考える。</li> </ul>	
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画面を介して教師と一緒に挨拶をしたり，教師に名前を呼ばれて返事をしたりする。</li> <li>・画面に映る担任や，小学部玄関，1年生教室（自分の新しい教室）などの様子を見る。</li> <li>・教師の絵本の読み聞かせを見聞きしたり，教師が出すクイズに答えたりして，画面を介したやり取りを楽しむ。</li> </ul>		
活動の様子	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の顔写真を見せながら名前を呼び掛けたり，興味のある物（人形，イラストなど）や児童にとって身近な教師がする絵本の読み聞かせ，予定表を画面に映したりすると，画面の前に座って，注目したり，返事をしたりする様子が見られた。（A～E児）</li> <li>○Web会議システムの機能を活用し，児童に注目させたい画面に切り替えながら活動を進めることで，児童が何を見るかが分かり，興味をもって画面に注目したり教師の質問に答えたりしていた。（A～E児）</li> <li>●2択クイズでは，「どっち。」などの言葉のみでの質問の理解が難しかった。（B児，E児）</li> <li>●教師が画面に提示した物に対して，児童が何に興味をもって見ているのかを画面を介して把握することが難しかった。（B児，E児）</li> </ul>	



写真1 朝の会の様子

＜オンラインでの学習 小学部1年生＞

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テレビや室内の物などに興味が移り、画面を介したやり取りに集中できなかった。(A児, D児)</li> <li>○児童の様子に合わせて教師の言葉掛け等を児童の隣で繰り返して言ったり、どこに注目すればよいかを指さしたりして伝えていた。</li> <li>●児童が画面の前から離れた際に、どの程度、言葉を掛ければよいか、戸惑う様子が見られた。(教師に遠慮する様子等が見られた。)</li> </ul>	 <p>写真2 活動の様子</p>
次回に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に、オンラインでの授業前に食事等の身の回りのことは済ませ、児童が気になるおもちゃ等は片付けてもらう。</li> <li>・活動後の保護者との振り返りを踏まえて、画面に映す教材と同じ物を事前に家庭に郵送したり、児童の実態に応じた視覚情報の提示や発問の仕方等を考えたりする。</li> <li>・活動中に、保護者にどのようなときに、どのタイミングで児童のサポートに入ってもらえるか、教師側にどのような情報をリアルタイムで伝えてもらうかを検討し、事前にメール等で具体的に伝える。</li> <li>・児童の表情が見えるように、カメラの位置を画面の近くに配置してもらう。</li> </ul>	



日にち	5月25日～28日	活動名	一緒に勉強しよう②
ねらい	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画面を見て、保護者と一緒にオンラインでの授業に参加する。</li> <li>・画面に映る教師や教師が提示する物に気付いて見たり、画面を介したやり取りに興味をもったりする。</li> </ul>	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師とオンラインでの授業における児童の様子について共有し、児童に応じた活動内容や、家庭での関わり方について教師と一緒に考える。</li> </ul>	
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画面を介して教師と一緒に挨拶をしたり、教師に名前を呼ばれて返事をしたりする。</li> <li>・教師の絵本の読み聞かせを見聞きしたり、教師が出すクイズに答えたりして、画面を介したやり取りを楽しむ。</li> <li>・郵送した教材（パズル、工作の材料など）を使って、画面を介して一緒に行う。</li> </ul>		
活動の様子	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師の質問に言葉で答えたり、保護者の促しを受けながら画面上の選択肢を選んで指さしで答えたりすることができた。(A児, D児)</li> <li>○自ら教師に「先生は、今日、何を食べたの。」「先生はどれが好き。」「○○したよ。」「じゃんけんしよう。」など、質問や提案などをした。(A児, D児)</li> <li>○事前に郵送した予定表を、画面を見ながら児童が手元で操作して確認することで、やること分かって活動に参加することができた。(B児, E児)</li> <li>○保護者と相談して考えた工作の活動に、きょうだい児も加わり、親子と画面を介した教師とで一緒に行うことができた。画面で作り方を説明する教師に注目して話を聞く様子や、楽しんで取り組む様子が見られた。(C児)</li> </ul>	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者もオンラインでの活動や活動中の教師とのやり取りに慣れてきて、必要に応じて児童に隣で働き掛けたり、様子を見守ったりするようになってきた。</li> </ul>	

IV オンライン学習の指導を通しての成果と課題

	成果	課題・改善点
児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の実施を前提とし、個々の児童の興味や関心に合った教材等を用いて授業を実施することで、画面に注目したり、画面を介して教師が自分に働き掛けていることに気付いて応じたりすることができるようになった。</li> <li>・決まった時間に定期的に行うことで、オンラインでの授業を楽しみにする児童もおり、一日の生活リズムを作る一助となった。</li> <li>・オンラインでの授業を通して、新しい環境(新しい担任、友達、小学部玄関や教室など)について知るきっかけとなり、6月の小学部入学・始業に当たり、見通しをもったり、落ち着いて入学式を迎えたりすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画面を介した教師とのやり取りに気付いたり応じたりすることが難しい児童もいた。</li> <li>→新しい担任と児童が関係作りをする上では、直接、対面での関わりが必要な児童もおり、児童の実態や家庭の状況に応じて実施した。</li> <li>・家庭での実施のため、周囲に興味のあるものがあると気持ちがそれてしまう児童もいた。</li> <li>→保護者に、事前にオンラインでの授業のねらいや活動の流れを伝えることで、児童の実態に応じて児童が集中して取り組むことができるように、家庭内の環境を整えたり、必要に応じて児童の隣で支援をしたりしてもらった。</li> </ul>

保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインでの保護者個別懇談で、担任と保護者が画面を介して顔を見ながら話をする事で、相互に親睦を深めることができた。</li> <li>・定期的に、オンラインでの授業や懇談をすることで、保護者が率直な思いや要望、休業中の家庭での過ごし方、不安や悩みなどについて担任や学校に直接伝えたり、情報交換をしたりすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器の操作や学習を展開するに当たり、保護者が児童の隣で、サポートをする必要があった。</li> <li>→保護者がオンラインでの授業に同席できる時間帯に実施する必要がある。</li> <li>・家庭の状況によっては実施回数、時間などの制限がある。</li> </ul>
教師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者から直接、児童の現在の興味・関心、家庭での様子などの情報を得たり、画面を介して児童の様子を見たりすることができ、実態把握と、オンラインでの授業の指導計画や家庭への支援計画を考えることができた。</li> <li>・オンラインでの授業後に、毎回10分程度、保護者から児童の様子を聞き取りすることで、要望や授業の改善点などを保護者と共有し、次回の授業に活かすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前で、担任と児童が直接関わったことがない状況でのオンラインでの授業であったため、実態把握が十分にできず、活動を設定することが難しい面もあった。</li> </ul>

## V オンラインでの学習をする上で大切なこと

### 1 児童の興味・関心を生かした教材を用いながら、見せ方や聞かせ方を工夫して取り組むこと

教師と児童がオンラインで、画面を介したやり取りや学習をするためには、画面を介して自分に働き掛ける教師に気付き、興味をもったり、児童が画面の向こうの教師へ働き掛けたい、伝えたいと思ったりするような教師と児童の関係性を構築することが重要である。さらに、児童が画面に注目したり、注目しながら話を聞いたりする力が必要になる。そうした力を付けていくためには、まずは、児童の興味や関心のある物や話題をきっかけにして、児童が注目したり、思わずやりたくなったりするような教材を用いたり、話し掛けたりすることが大切である。その中で、オンラインでの授業で使用するアプリの機能や特性などを生かして、教材を見せる角度や見せる時間など提示の仕方を工夫したり、児童が分かる言葉掛けや発問の仕方を工夫したりすることが重要である。

### 2 児童の実態に応じて学習のねらいや内容を精選し、児童の反応を見逃さずに取り組むこと

初めての試みであるオンラインでの授業では、児童の集中時間に合わせて、学習のねらいを絞り、学習内容を盛り込み過ぎず、取り組むことが大切である。対面での授業の雰囲気とは大きく異なり、教師が児童の様子や反応（表情、声、動き、集中の様子、疲労の様子など）を把握しにくい面もある。したがって、教師も画面から得られる限られた情報に注意を払いながら、教師の言葉掛けや発問に対する児童の反応や思考する速さを慎重に観察して、焦らずに児童の反応を待ったり、学習を進めたりすることが大切である。

### 3 保護者と協力し、児童の実態を把握したり、周囲の環境を整えて学習に取り組んだりすること

児童の実態によっては、オンラインでの学習をするに当たり、児童の隣で、画面の向こうの教師の働き掛けを児童に直接促したり、児童の意図や考え、思いを教師に伝えたりしながら、学習のサポートをする保護者の存在が必要である。その際には、教師の指導のねらいや学習内容、児童への支援の仕方、児童が学習に集中できるような環境の作り方などについて、事前に保護者にしっかりと伝えて、共通理解を図り、学習に臨むことが大切である。これは、家庭の状況等によっては、保護者自身の負担になることもあるが、一方で児童の実態や学習に取り組む様子を保護者と共通理解し、協働して児童の成長のために取り組むチャンスでもある。オンラインでの学習のねらいや教師の意図を伝え、保護者と相談し、協力しながら学習を進めていくことで、担任と保護者との関係作りにもつながる。



## オンラインでの学習の指導記録

小学部 4 年 教諭 間山響子, 稲本純子, 柿本将太

### I オンラインでの学習を始めるにあたって

本学級には、男子 5 名、女子 1 名、計 6 名の児童が在籍している。前年度の学級担任全員が他地域に転勤したこと、今年度の学級担任 3 名のうち 2 名が今年度転勤・転任してきた教師であることから、保護者の不安感が強く、4 月の上旬から電話でのやり取りをしたり、学級主任のみが家庭訪問を行ったりしながら、休業期間中の児童の様子や保護者の不安感などについて聞き取りをしていた。

児童のコミュニケーション面に関しては、単語や 2, 3 語文の言葉で自分の要求を伝える児童や平仮名の 50 音表やタブレットの音声機能を活用して会話をする児童がいる。また、絵本やカレンダーなどを指さして、自分の伝えたいことを表現する児童もいる。教師からの質問に関しては、イラストを提示して「これは何ですか。」と尋ねられると、複数の選択肢から対応した文字を選んだり、言葉で答えたりすることができる。一方で、「今日の朝御飯は、何を食べましたか。」の質問には、答えることが難しい児童が多い。言葉だけのやり取りだけでなく、イラストや文字などを使って質問を提示することで、質問の意味が分かり、答えることができる児童がいる。また、童謡や歌遊びが好きで、教師の動きをまねして一緒に手遊びをしたり、歌を口ずさんだりすることを楽しむことができる児童がいる。

休業期間中は、6 家庭のうち 5 家庭は、週に 3～6 日間放課後等デイサービスを利用していただけから生活習慣の乱れはなく過ごしていた。1 家庭は、放課後等デイサービスの利用を控えていたため、ほぼ一日家で過ごしており、昼夜逆転している生活の状態であった。そこで、オンラインでの学習では、まずは、児童の興味・関心のあることを活用しながら担任と児童、保護者との関係作りをすること、児童の実態を把握することを目的とすることにした。また、家庭によっては、毎日 30 分程度、同じ時間に学習を設定して、生活習慣を整えることも併せて目的とすることにした。

### II オンラインでの取組のねらい

- ・画面に注目し、教師を見たり、教師からの呼び掛けや問い掛けに答えたりする。
- ・教師の歌い掛けを聞いたり、動きをまねしたりしながら、歌の一部を歌ったり、体を動かしたりする。
- ・教師や友達の顔を見たり、やり取りをしたりすることで学校生活を楽しみにする。
- ・教師と保護者とで情報交換をしながら、保護者の新年度の学校生活への不安感を和らげる。

### III 指導スケジュール

月 日	A 児	B 児	C 児	D 児	E 児	F 児
5 月 12, 14 日	・個別での学習「Zoom をはじめよう」 →各家庭と時間を設定して、学校対家庭とのテストミーティング					
5 月 14, 21 日	・調理「焼きそばを作ろう」、絵本読み「よわむしモンスターズ」(のぶみ著 講談社)、図画工作「あじさいを作ろう」、手遊び「ピクニック」、運動「縄跳びをしよう」、「風船で遊ぼう」、体操「エアロビクス」、学級の畑作り、朝の会を教師が実演している動画の DVD を送付する					
5 月 22～29 日	・個別での学習「先生と一緒に勉強しよう」1 回：20～40 分 →A 児 (4 回)、B 児 (5 回)、C 児 (3 回)、D 児 (9 回)、E 児 (5 回)、F 児 (5 回)					
5 月 25～28 日	・一斉での学習「みんなで朝の会をしよう」(自由参加)					
5 月 29 日	・一斉での学習「4 年生が始まるよ」(自由参加)					

#### IV 指導の実際

日にち	5月12日	活動名	Zoomをはじめよう
ねらい	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>画面に映る教師や自分の姿を見たり，教師の話の聞いたりする。</li> <li>教師からの質問に，言葉や指さしで答える。</li> </ul>	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>自宅の機器を使って，Web 会議システムに接続したり，退出したりする。</li> </ul>	
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いに自己紹介をしたり，教師の質問に画面のイラストから選んで指さしたり，言葉にしたりして答える。</li> <li>家庭の学習環境，インターネットの接続環境などの確認をする。</li> <li>Web 会議システムへの接続，退出などの使い方を確認する。</li> </ul>		
活動の様子	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>○画面に映る自分に気が付き，画面に自分の顔を近付けたり，口を開閉したりして遊んでいた。(A 児，D～F 児)</li> <li>○教師から名前を呼ばれると，返事をしたり，問い掛けに答えたりする児童がいた(A 児，B 児，E 児)。一方で，保護者の促しがあると答えることができる児童もいた。(C 児，D 児，F 児)</li> <li>○無事に全家庭の接続ができた。</li> <li>●タブレット端末やおもちゃを持っていたので画面に注目することが難しい児童がいた。(A 児，D 児，F 児)</li> <li>●5分ほどで席を離れる児童がいた。(D 児)</li> </ul>	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教師からの質問に児童が答えないうちに，保護者が教師の質問を繰り返して何度も児童に問い掛けることがあった。</li> </ul>	
次回に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に，保護者に学習内容とねらい，関わり方についてメールで伝えて確認する。</li> <li>また，学習前には，おもちゃを片付けるなど学習環境を整えてから取り組む。</li> <li>言葉だけのやり取りが難しい児童がいたので，児童の興味・関心に応じて，手遊びや体操，プレゼンテーションソフトを活用したクイズなどを用意する。</li> </ul>		



写真1 E 児活動写真



日にち	5月26日	活動名	先生と一緒に勉強しよう
ねらい	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>画面を見て，自分で文字を読んだり，数を数えたり，教師からの問い掛けに答えたりする。</li> <li>教師の絵本読みを聞き，ペープサートを操作したり，体を動かしたりする。</li> </ul>	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が答えるまで待ったり，児童の様子を教師に伝えたりする。</li> </ul>	
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラストを見て，単語を答えたり，数を数えたりする。</li> <li>教師の言葉を聞いて，絵本に出てくるペープサートを選んで操作したり，指定された動きをしたりする。</li> </ul>		
活動の様子	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>○画面に映ったイラストを見て，イラストの名称を答えたり，数を数えたりすることができた。(A～F 児)</li> <li>○教師の絵本読みを聞きながら，指定されたペープサートを選んで画面に見せたり，登場人物の名称を言ったりすることができた。(A 児，B 児，D～F 児)</li> <li>●プレゼンテーションソフトを活用した，国語や算数のクイズでは教師の問い掛けに答えるなどのやり取りができるが，画面で顔を見ながらの言葉でのやり取りが難しいことが多かった。(C～F 児)</li> </ul>	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習環境を整えたり，教師の問い掛けに児童が答えるまで待ったりすることができた。</li> </ul>	
次回に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語・算数のクイズの場面だけでなく，教師の顔を見ながらの手遊びや運動や体操などを行い，教師とやり取りする場面を取り入れるようにする。</li> </ul>		

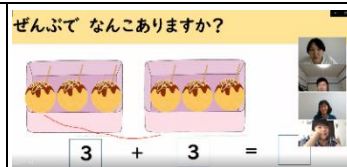



写真2 D 児活動写真



写真3 E 児活動写真

<オンラインでの学習 小学部4年生>



日にち	5月28日	活動名	朝の会をしよう
	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>画面に映る教師や友達に気付いて、相手を見たり、相手に言葉を掛けたりする。</li> <li>自分の役割が分かり、挨拶をしたり、返事をしたりする。</li> </ul>	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童と一緒に、挨拶をしたり、返事をしたりする。</li> </ul>	
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>日付、天気、名前呼びをする。</li> <li>画面の文字を読みながら挨拶をしたり、イラストを選んだりする。</li> <li>教師の歌い掛けを聞いたり、手の動きをまねしたりしながら手遊びをする。</li> </ul>		
活動の様子	児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>○画面に友達が映ると、指さしをしたり、ほほ笑んだりする児童がいた。</li> <li>○保護者と一緒に挨拶の文字を読んだり、教師に名前を呼ばれると返事をしたりすることができた。</li> <li>○教師の手遊び歌を聞いたり、動きを見たりしながら、教師の動きをまねて体を動かすことができた。</li> <li>●名前呼びなど、画面に友達がアップになっているときに、視線がそれる児童が多かった。</li> </ul>	 <p>写真4 朝の会写真</p>
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の役割のときに、児童と一緒に挨拶をしたり、活動の内容を促したりすることができた。</li> </ul>	

IV オンライン学習の指導を通しての成果と課題

	○成果	●課題・改善点
児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後等デイサービスを利用していない児童にとっては、毎日学習する時間になり、生活リズムを整えることができた。</li> <li>休業期間中に、学習に向かう機会ができた。</li> <li>学校再開に向けて、少しずつ教師や友達とのつながりを作り、準備することができた。</li> <li>学習の回数を重ねると、自分からパソコンの前に座って準備したり、集中して画面を見たりすることが増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日放課後等デイサービスを利用している児童にとっては、負担感があったので、実施回数は減らして設定した。</li> <li>自分の生活する場所で学習するため、学習に向かう環境を整えることが必要だった。</li> <li>画面の相手とやり取りする経験がなく、教師の問い掛けに答えられないことも多くあった。保護者に協力してもらい、繰り返し問い掛けたり、言い直したりする必要があった。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の学習に向かう姿勢や学習内容の理解について知ることができてよかった。</li> <li>年度が変わり、初めて会った教師の顔を見ながらやり取りしたり、教師が児童と学習する場面を隣で見たりすることで、信頼関係を築くことができた。</li> <li>休業期間中、学校とつながりを感じられてよかった。安心感をもつことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者ができていると思っていることに関しては、たくさん言葉掛けをしたり、やらせようと促したりする行動が増えるので、事前に教師が学習内容や学習のねらい、保護者の関わり方をメールで伝えて共有してから学習を行うようにした。また、児童との学習後、教師と学習の様子を振り返ったり、最近の家での様子などを聞き取ったりした。</li> </ul>
教師	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人一人に応じて課題を設定して実施したことで、毎回改善しながら学習を行い、児童の認知面での実態把握ができた。</li> <li>一人の児童の学習の様子を、担任全員で見ることができた。複数の視点で、児童の現在の課題や次の学習内容について話しながら進めることができた。</li> <li>初めて会う児童や保護者だったので、顔を見ながらやり取りをし、関係作りをすることができてよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童にとって学習に集中できる環境を作っていくことが難しかった。家の構造や児童の生活している場所や生活の流れが分からない中で、可能な範囲で家庭にお願いしながら進めた。</li> <li>画面上でできること、できないことがよく分かった。直接的な指導ができないため、学習の中でのできないことができるようになるという指導内容は難しいと感じた。</li> </ul>

## V オンラインでの学習をする上で大切なこと

### 1 自分の生活の場で学習環境を整えること

家庭で学習することは想像以上に難しいことである。事前に保護者に協力してもらいながら、家での生活状況や児童の生活リズムを確認し、児童の日常生活の中で学習に取り組むことができる環境を整えることが重要である。何の機器を使用するか、椅子に座るのか座らないのか、遊び道具は片付けることができるか、事前の学習予告はいつするのか、などを丁寧に確認しながら児童が学習に向かう姿勢を作ることが大切である。

### 2 物を介したやり取りから始めること

児童にとって、普段から関わりのある相手であれば、画面を通して知っている顔や声だと認識することができるが、今回は年度初めの休業期間中ということもあり、直接関わったことのない相手と画面越しでやり取りすることは、本当に難しいことであった。そこで、教師からの問い掛けに答えたり、教師の動きをまねしたりするためには、児童の実態に応じて、児童が知っているキャラクターや言葉、数字などを活用してプレゼンテーションソフトで教材を提示したり、絵本読みではペーパーサートを用いたりすることが効果的であった。画面上で、同じ物を見たり、物を操作しながら同じ動きをしたりすることで、少しずつ相手の顔や声を知り、相手からの働き掛けに応じることができるようになる。

### 3 保護者と連携しながら進めること

オンラインでの学習は、教師が児童に直接指導することができないので、児童の隣にいる保護者に協力してもらいながら学習を進める必要がある。教師と保護者とで学習のねらいを踏まえた関わりをするために、事前に保護者に学習のねらい、学習の内容、保護者の関わり方をメールで連絡して伝えておくことが大切であった。また、学習後に、保護者から児童の学習の様子や次回の学習への要望を聞いたり、教師の感じた児童の様子や学習の改善点を話したりし、保護者と教師と一緒に振り返りを行うことがオンラインでの学習の授業改善につながり大切であった。